

葛原の畑本さんから、義農善六の話を中心に昔話を聞きました

2012.2.29

畑本さんは昔からの地域に伝わる言い伝えをお祖父さんから聞いたそうです。まず義農善六です。善六物語では悪徳庄屋が枡の容量を大きくしたとされていますが、実は検地役人が、検地棒（六尺）を短くして検地したというのが本当のようです。善六がこんな不条理なことは無いと怒って、検地棒をへし折ったといわれています。善六は現在葛郷の沢沿いにあるコンクリートプラントの敷地かその近隣で処刑されたのではないかとのことです。又この事件の関係者はほとんど他地方へ逃げており、山口県などで善六の話が残っているところがあるそうです。善六の墓と思われる自然石と地蔵が葛郷の国道433号線沿いにひっそりと残されています。説明が一切無いので通りがかりのものには単なるお地蔵さんとしか映らないでしょう。又善六は一百姓ではなく、れっきとした庄屋であったという話もあるそうです。庄屋では影響が大きいので、偽装したということでしょうか。

十文字が当時はこの地区の中心地で役場や寺子屋もあったそうです。善六の裁定もこの十文字で行われたのではないかと畑本さんは言われます。そうであれば、善六が処刑される時に自分の家の前を通ったという言い伝えが説明できないようです。

現在の最広寺の上部に侍屋敷があったそうです。用水路で峠の方からこの屋敷まで水を引いた痕跡が見られるそうです。確認したら面白いのではないかと思います。

侍の女房は夜な夜な丸淵に出かけて、しまいには蛇になったという話もされましたが、これが湯来民話「おなみ淵」に表されているのではないのでしょうか。

河内から砂谷に抜ける昔のルートをお聞きしました。それは河内→荒谷→河内峠→白川→大野原→葛原→十文字→川角→伏谷です。十文字が重要な要地であったことがわかります。白川の道は川沿いの低いところを通っていたようです。葛原の古道は旧県道よりもっと山沿いに狭小な路があったそうです。

河内峠を少し奥に入ったところに、大杉という集落がありむかしは木を伐りだしたりするのに多くの人が住んでいたようです。ここに民話「葛原の大木」が残されています。

今の県道の魚切ダムのルートは最初河内峠の下を隧道で抜く案もあったそうですが、反対意見が強くて現在のルートになったようです。隧道であれば冬季の積雪に悩むことが無かったかもしれませんが、魚切周辺の絶景が見られないと思うと現ルートで良かったのかなとも思います。

畑本さんには一時間半も時間をとっていただき、善六の祀所にも案内していただき大変ありがとうございました。聞き手は南公民館田丸館長、光井主査、HP部会賀張、上瀬でした。

